

【参考資料】

令和7年度 全国学力・学習状況調査 四街道市内小中学校の結果概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 実施日・「教科に関する調査」の実施教科・対象学年

実施日：令和7年4月17日（木）、（中学校理科）4月14日～17日のうち1日

実施教科：小学校…国語、算数、理科

中学校…国語、数学、理科 *理科のみ：CBT方式

*CBT…一人一台端末を使ってオンラインで試験を行う方式

対象学年：小学校6年児童・中学校3年生徒

3 本市における調査結果の評価

「教科に関する調査」については正答率、質問紙調査については「児童生徒の回答の割合」を以下の基準にて評価

正答率または 児童生徒の回答の割合	表 記
80%以上	得意である、身に付いている、高い傾向にある
60%以上80%未満	概ね身に付いている、概ね理解している
60%未満	課題がある、低い傾向にある

- ・文部科学省の実施要領には、調査結果は学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることを踏まえ、序列化や過度な競争が生じないようにすると記載されており、この結果をもって、小学校6年生、中学校3年生の学力をすべて網羅しているものではない。
- ・文部科学省からの公表・提供資料では、市町村別、都道府県別の正答率については整数値となっている。
- ・中学校理科においては、IRTスコアによる値のため、個々の問題のみ正答率で評価する。

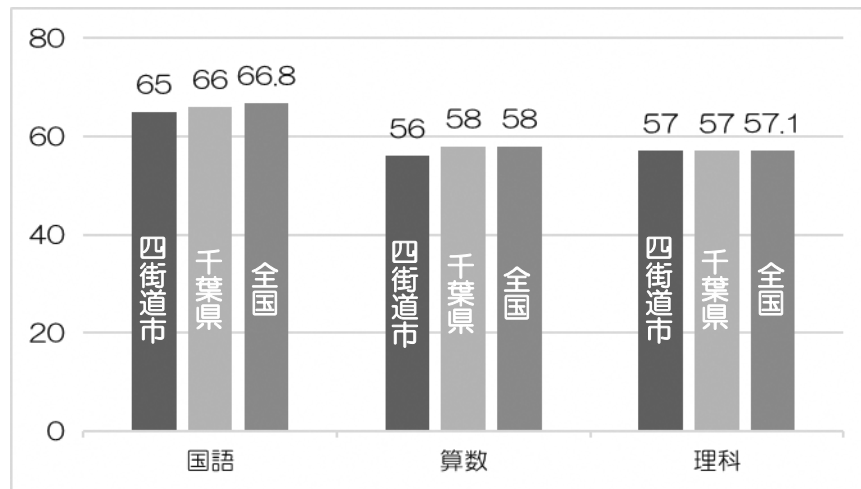
*IRT…一人一人の問題の正誤状況を活用し、調査に取り組んだ生徒の学力を測定する方法。異なる問題から構成される試験の結果を同じものさしで比較できる。「項目反応理論」

*IRTスコア…IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。

4 教科に関する調査結果概要

(1) 小学校調査

ア 平均正答率



イ 領域、問題形式別正答率

【小学校国語】

対象児童数	四街道市教育委員会	千葉県（公立）	全国（公立）
	828	46,482	936,137

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				四街道市	千葉県(公立)	全国(公立)
全体			14	65	66	66.8
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	71.9	74.2	76.9
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	61.5	62.6	63.1
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	82.0	81.2	81.2
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	63.6	65.3	66.3
		B 書くこと	3	66.0	67.7	69.5
		C 読むこと	4	57.4	57.4	57.5
評価の観点	知識・技能	4	71.8	73.1	74.5	
	思考・判断・表現	10	61.9	62.9	63.8	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	9	63.4	64.3	64.7	
	短答式	3	75.1	76.7	78.5	
	記述式	2	55.0	56.1	58.8	

【小学校算数】

対象児童数	四街道市教育委員会	千葉県（公立）	全国（公立）
	830	46,501	936,399

分類	区分	対象問題 数	平均正答率(%)		
			四街道市	千葉県（公立）	全国（公立）
全体		16	56	58	58.0
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	60.1	62.2	62.3
	B 図形	4	53.0	55.2	56.2
	C 測定	2	51.1	54.9	54.8
	C 変化と関係	3	57.1	58.5	57.5
	D データの活用	5	60.1	62.3	62.6
評価の観点	知識・技能	9	62.8	64.8	65.5
	思考・判断・表現	7	46.1	48.3	48.3
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	66.5	67.3	67.2
	短答式	6	61.1	63.4	64.0
	記述式	4	30.6	34.2	34.9

【参考資料】

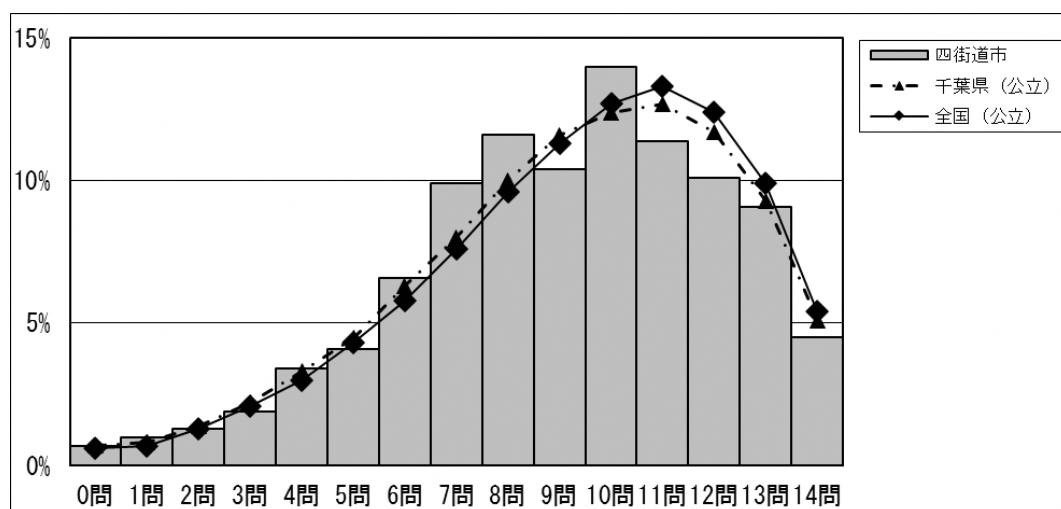
【小学校理科】

対象児童数	四街道市教育委員会	千葉県（公立）	全国（公立）
	830	46,552	936,576

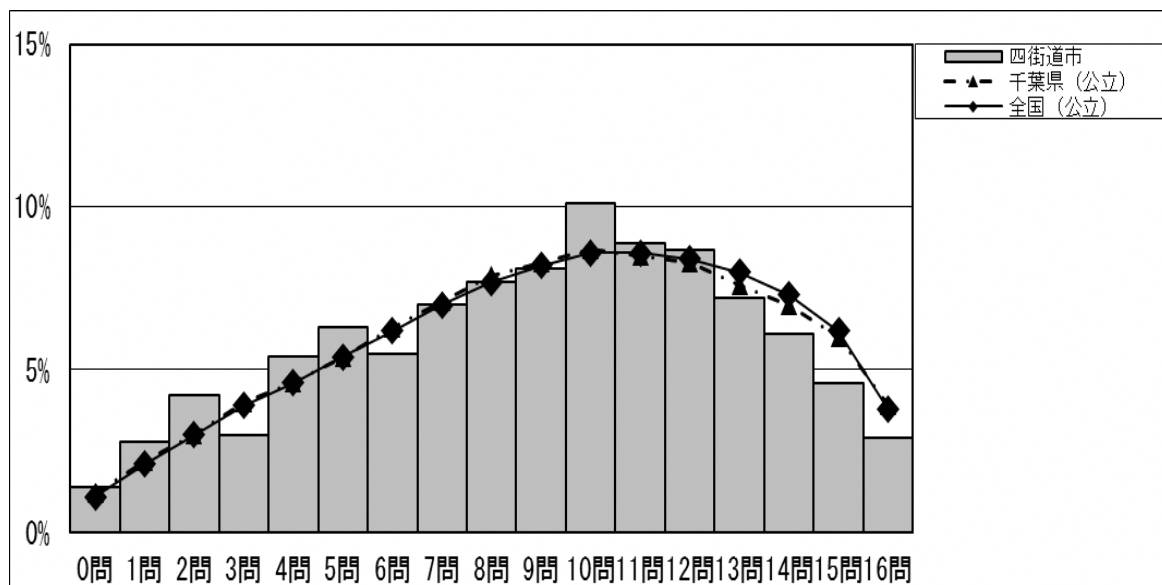
分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				四街道市	千葉県(公立)	全国(公立)
全体			17	57	57	57.1
学習指導 要領の区 分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	48.6	48.2	46.7
		「粒子」を柱とする領域	6	50.6	51.6	51.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	4	49.2	49.6	52.0
		「地球」を柱とする領域	6	66.6	66.5	66.7
評価の観点		知識・技能	8	55.8	55.7	55.3
		思考・判断・表現	9	57.7	57.8	58.7
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	11	55.2	55.4	54.7
		短答式	4	69.7	69.1	69.7
		記述式	2	39.9	40.3	45.2

ウ 正答数の分布

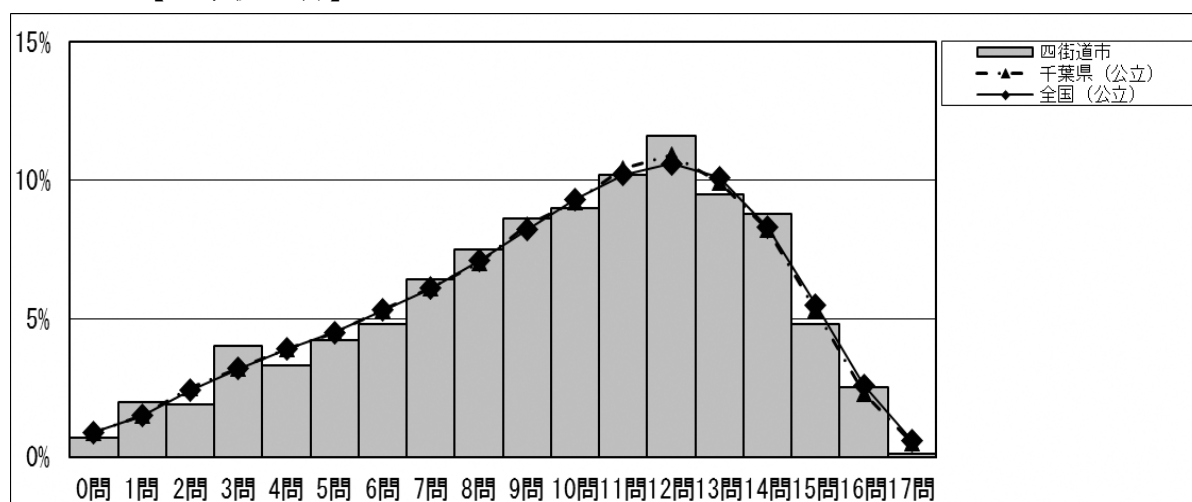
【小学校国語】



【小学校算数】



【小学校理科】



エ 評価

【小学校国語】

- 出題されている学習内容をおおむね理解している。
- 「読むこと」の領域に課題がある。
- 記述式の問題について、課題がある。
- 正答数の分布を見ると、概ね望ましい分布となっている。

【小学校算数】

- 平均正答率で見ると、低い傾向にある。
- 「図形」と「測定」、「変化と関係」の領域に課題がある。
- 思考力・判断力・表現力に課題がある。
- 記述式の問題について、課題がある。
- 正答数の分布を見ると、概ね望ましい分布となっている。

【小学校理科】

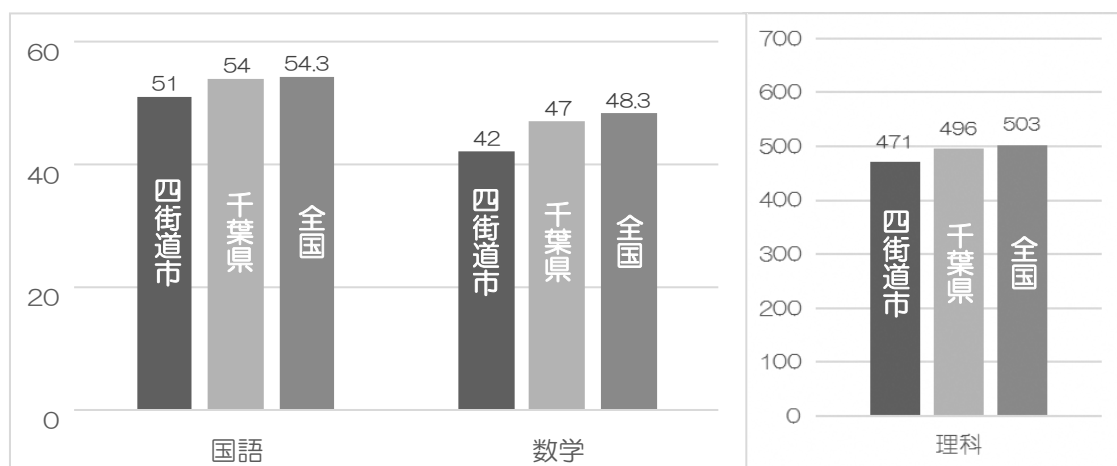
- 平均正答率で見ると、低い傾向にある。
- 「エネルギー」と「粒子」、「生命」を柱とする領域に課題がある。
- 記述式の問題について、課題がある。
- 正答数の分布を見ると、概ね望ましい分布となっている。

【参考資料】

(2) 中学校調査

ア 平均正答率

※平均 I R T スコア



※IRT スコア…IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で表すもの。

イ 領域、問題形式別正答率

【中学校国語】

対象生徒数		四街道市教育委員会		千葉県（公立）	全国（公立）
		772		43,450	870,560

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				四街道市	千葉県（公立）	全国（公立）
		全体	14	51	54	54.3
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	47.5	49.1	48.1
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0			
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	4	50.8	53.1	53.2
		B 書くこと	5	47.2	52.0	52.8
		C 読むこと	3	59.9	62.5	62.3
評価の観点	知識・技能	2	47.5	49.1	48.1	
	思考・判断・表現	12	51.6	55.0	55.3	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	8	61.7	64.4	63.9	
	短答式	2	71.4	74.7	73.6	
	記述式	4	19.3	23.5	25.3	

【中学校数学】

対象生徒数		四街道市教育委員会	千葉県（公立）	全国（公立）
		773	43,464	871,097

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率(%)		
全体		15	四街道市	千葉県（公立）	全国（公立）
学習指導要領の領域	A 数と式	5	37.6	42.8	43.5
	B 図形	4	39.9	45.5	46.5
	C 関数	3	42.4	47.3	48.2
	D データの活用	3	50.0	56.8	58.6
評価の観点	知識・技能	9	48.9	53.5	54.4
	思考・判断・表現	6	30.7	37.8	39.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	3	52.8	54.6	54.0
	短答式	7	44.3	50.5	52.0
	記述式	5	31.2	38.2	39.6

【中学校理科】

対象生徒数	四街道市教育委員会	千葉県（公立）	全国（公立）
	766	42,895	864,634

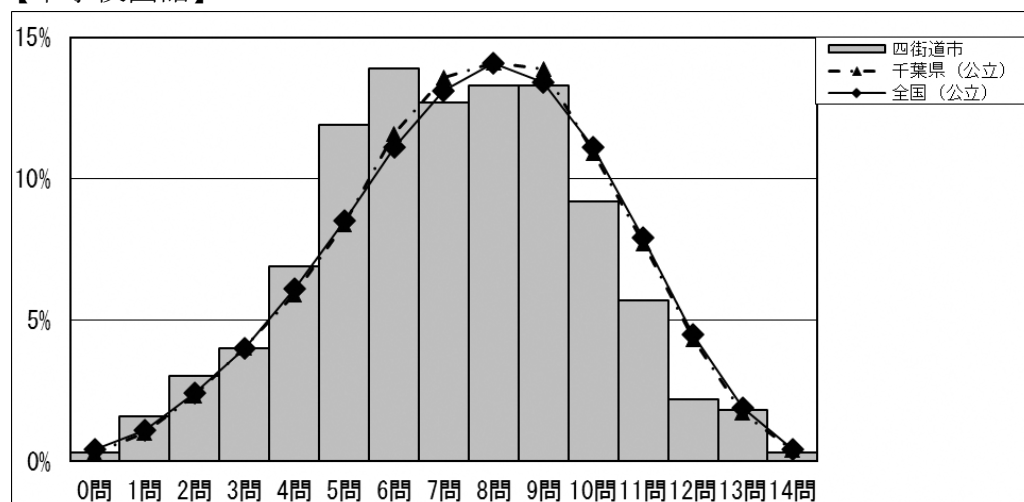
分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				四街道市	千葉県（公立）	全国（公立）
学習指導 要領の区 分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	5	53.7	55.9	56.1
		「粒子」を柱とする領域	8	54.3	59.5	61.7
	B区分	「生命」を柱とする領域	5	41.2	45.0	44.8
		「地球」を柱とする領域	5	32.5	36.8	37.3
評価の観点		知識・技能	10	63.2	66.6	66.8
		思考・判断・表現	12	32.6	37.3	38.8
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	15	53.8	57.1	56.9
		短答式	1	30.3	39.6	44.9
		記述式	6	31.1	36.3	39.3

※公開問題の結果のみ記載。

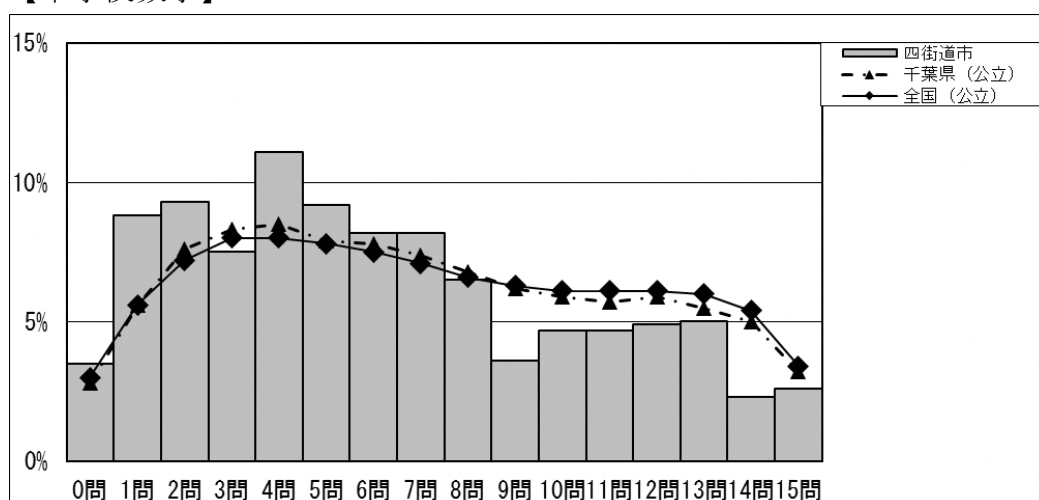
本市では出題されていない公開問題については、全国の解答状況に基づき、本市各生徒と同程度の
I R Tスコアにおいて期待される予測正答率で集計している。

ウ 正答数の分布

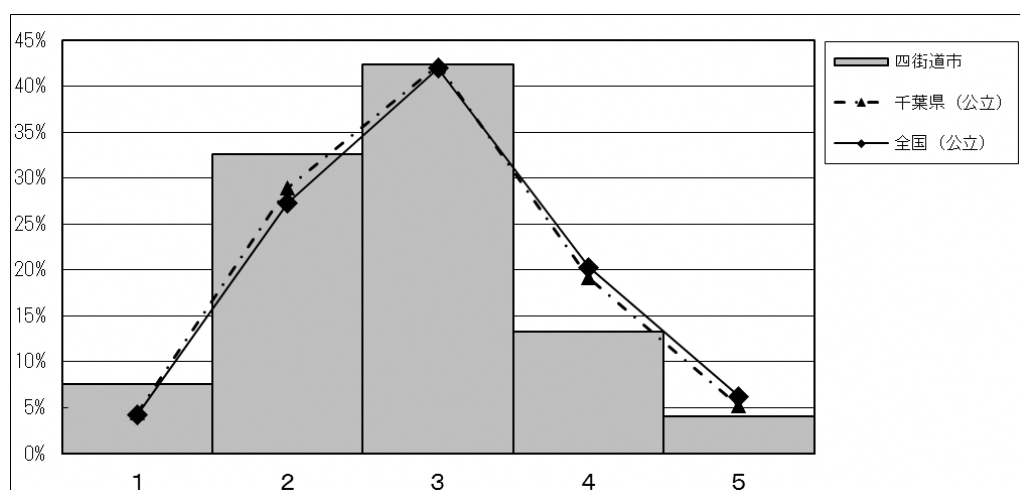
【中学校国語】



【中学校数学】



【中学校理科】※ I R T バンドの分布



※ I R T バンド… I R T スコアを 5 段階に区切ったもの。3 を基準とし、5 が最も高いバンド。

エ 分析・評価

【中学校国語】

- 平均正答率でみると、低い傾向にある。
- 知識及び技能の「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題がある。
- 思考力、判断力、表現力の中でも、特に「書くこと」の領域に課題がある。
- 記述式の問題について、著しく課題がある。
- 正答数の分布をみると、平均正答率より低いところにピークが見られる。

【中学校数学】

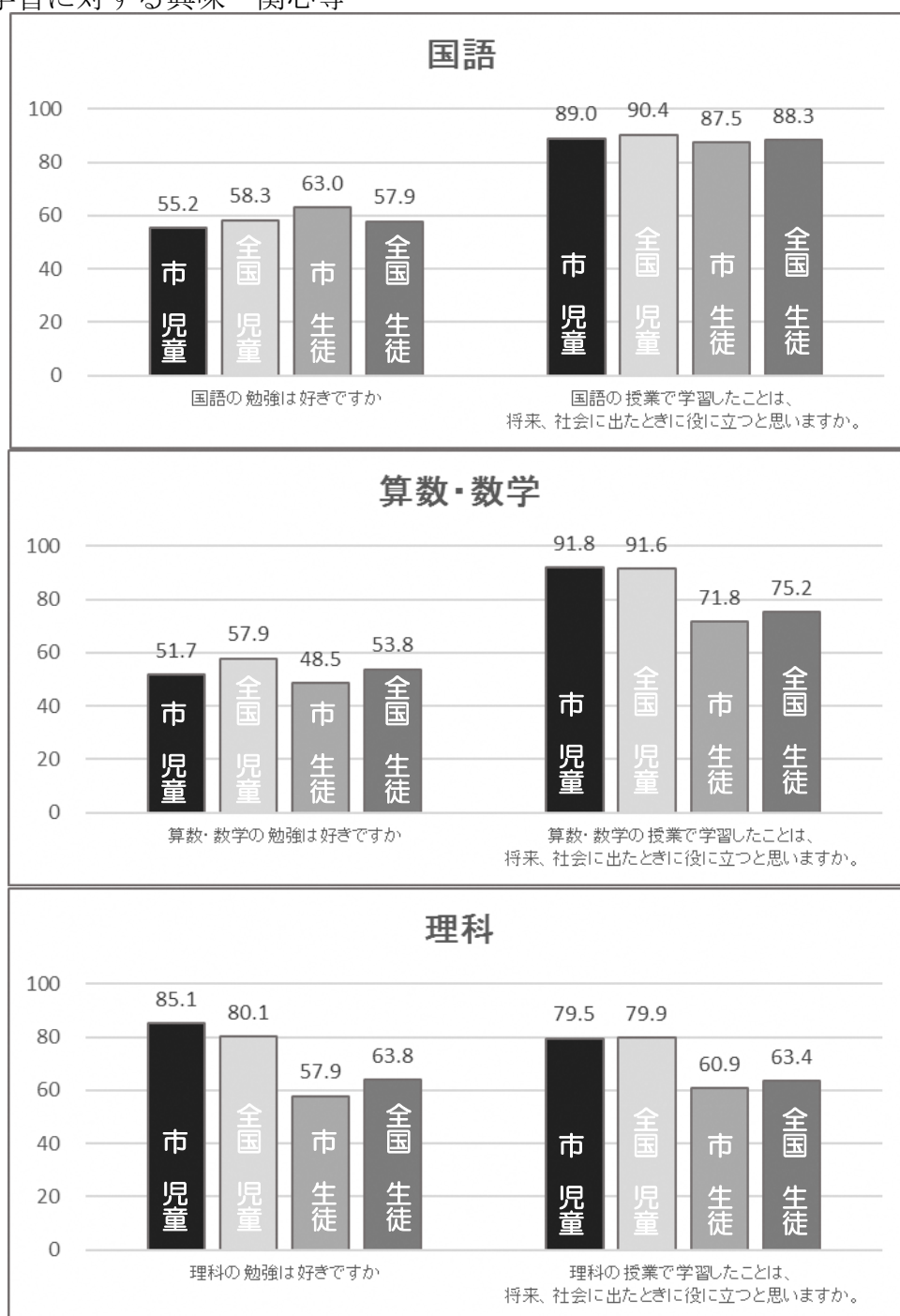
- 平均正答率でみると、低い傾向にある。
- 全ての領域に課題があり、特に「数と式」「図形」の領域でその傾向が顕著である。
- 思考力、判断力、表現力を問う問題に課題が見られる。
- 記述式の問題について、課題がある。
- 正答数の分布をみると、若干二極化しており、平均正答率より低いところに偏りが見られる。

【中学校理科】

- I R T バンドの分布をみると、4 の分布が少なく、2 の分布が多い。
- 全ての領域に課題があり、特に「地球」を柱とする領域でその傾向が顕著である。
- 短答式と記述式の問題について、特に課題がある。

5 児童生徒質問紙調査結果概要

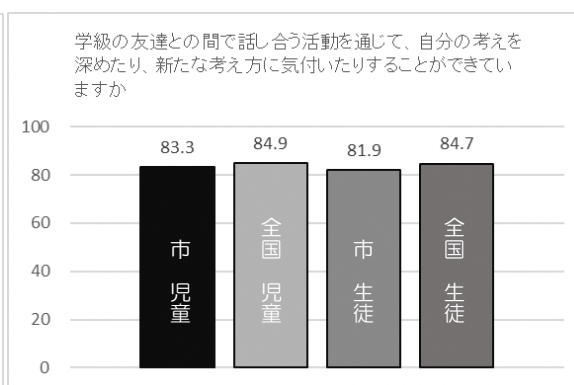
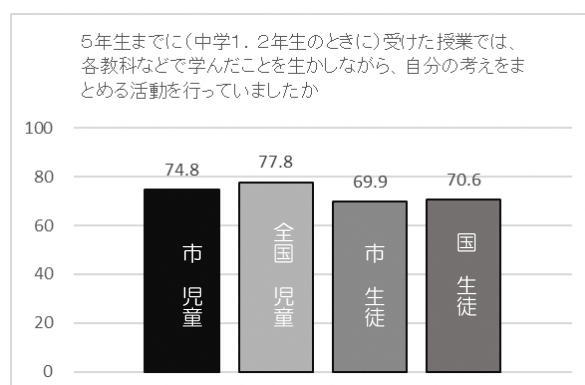
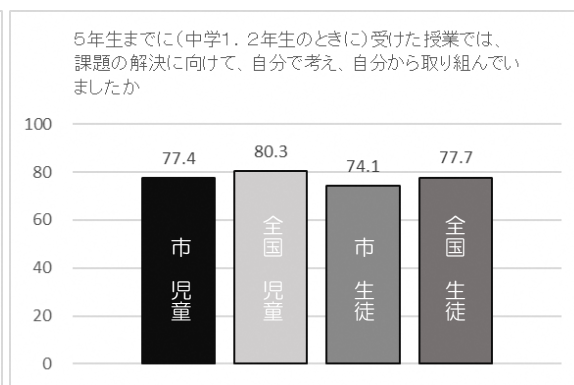
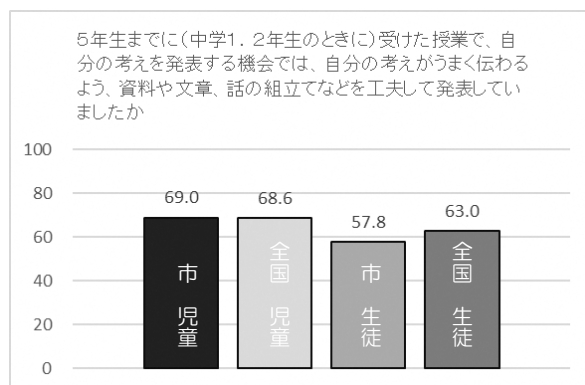
(1) 学習に対する興味・関心等



【評価】

- 小学校では、国語に対する興味・関心について、低い傾向にあるが、理科に対する興味・関心は高い傾向にある。
- 小学校、中学校ともに、特に算数・数学に対する興味・関心が低いため、算数・数学を学ぶことのよさに気付くよう、日常の事象と学習内容を結び付ける活動や法則性を発見する探究的な活動などの数学的活動を充実させて行く必要がある。
- 中学校では、理科に対する興味・関心についても低い傾向がある。
- 小学校では、各教科の学習に対して「将来、社会に出たときに役に立つ」と考えている割合が高い傾向にある。中学校でも概ね高い傾向にあることから、今後も学ぶ必然性や意義が感じられる学習活動となるよう努めていく必要がある。

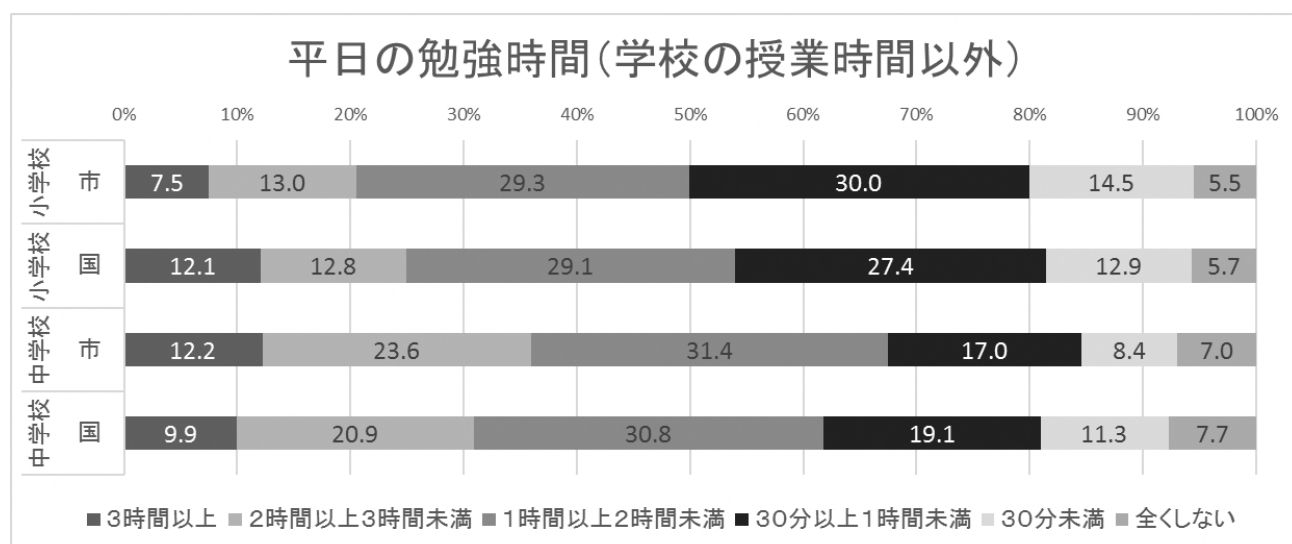
(2) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

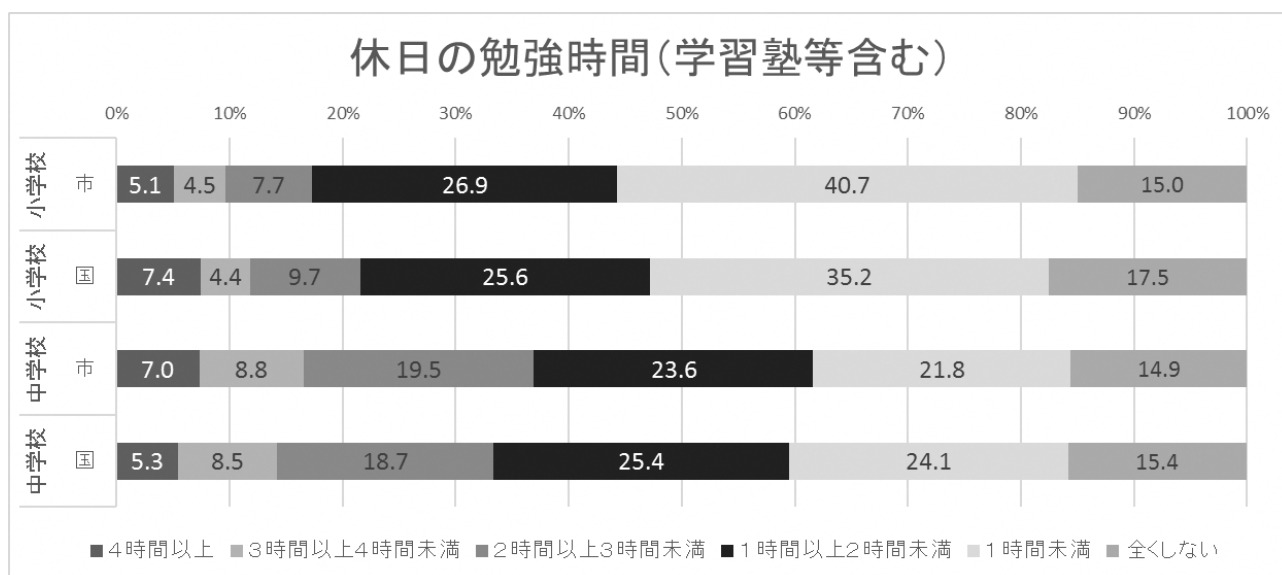


【評価】

- 各学校で主体的・対話的で深い学びの視点を意識した授業が展開されている。
- 特に中学校において、授業の中で自分の考えを発表する機会に自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表する活動ができていたと認識している生徒の割合が6割以下であった。授業の中で自分の考えを発表する機会を意図的に設けるとともに、相手に考えを伝えるための工夫について、自らの学習の様子を継続して振り返ることができるようにする等、授業改善が必要である。

(3) 学習習慣等

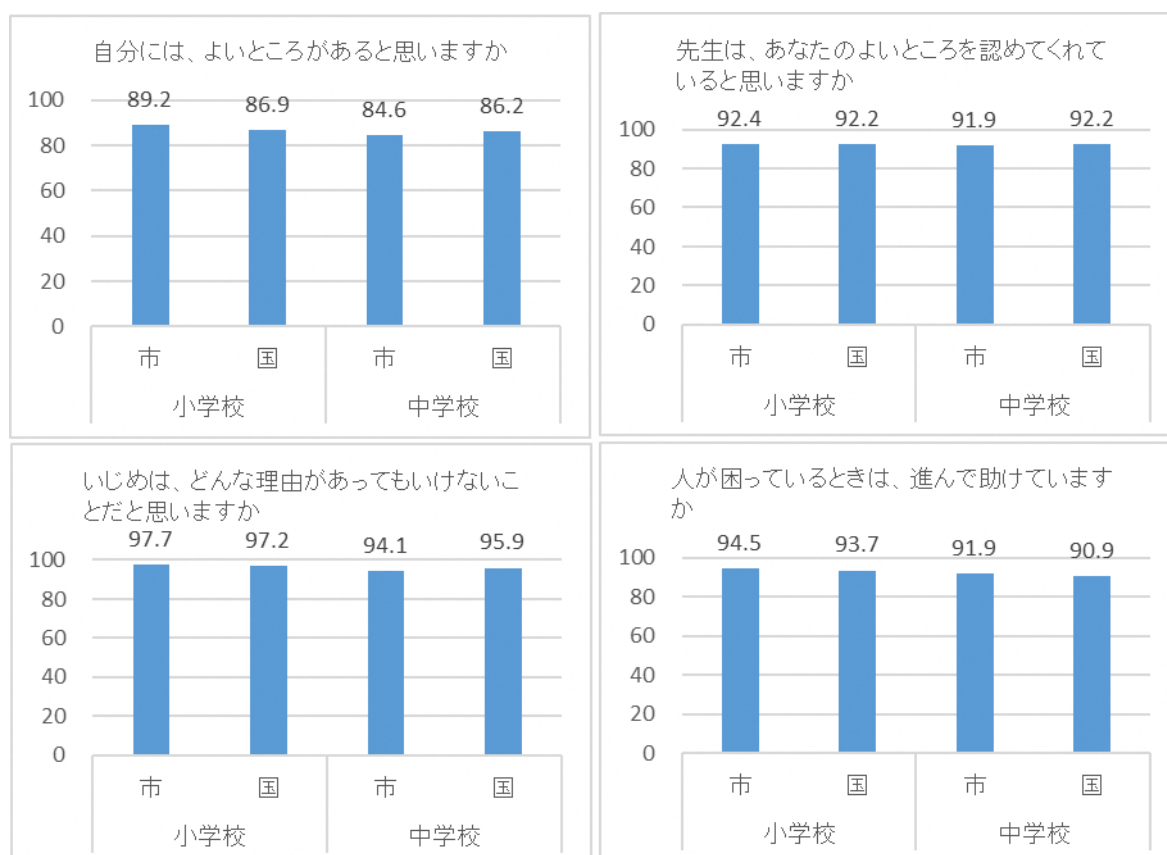




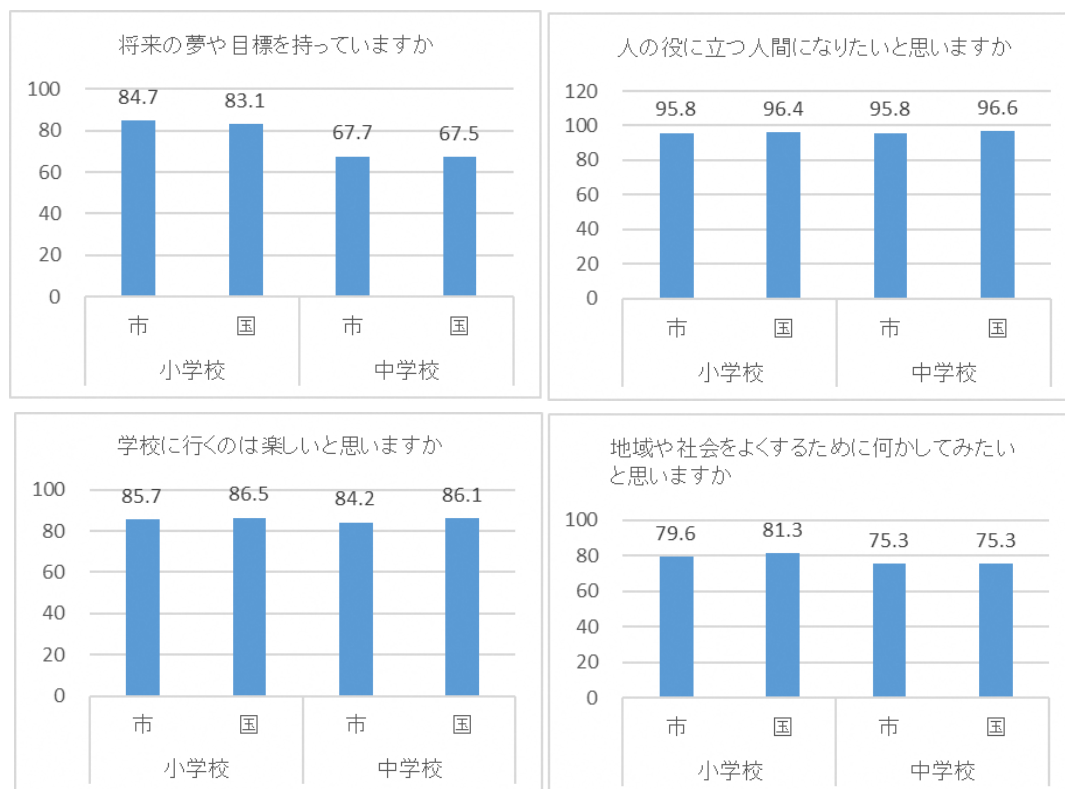
【評価】

- 小学校では、平日の授業以外の学習時間については、およそ半数の児童が1日当たり1時間以上学習に取り組んでいるが、全く学習しない児童が平日は5.5%、休日15.0%見られる。家庭学習の習慣をどの児童も身に付けられるよう、今後も家庭と連携していく必要がある。
- 中学校では、平日、休日ともに1時間以上学習に取り組む生徒の割合が、60%を超えており、学習習慣が身に付いている生徒が小学校に比べて多い。

(4) 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等



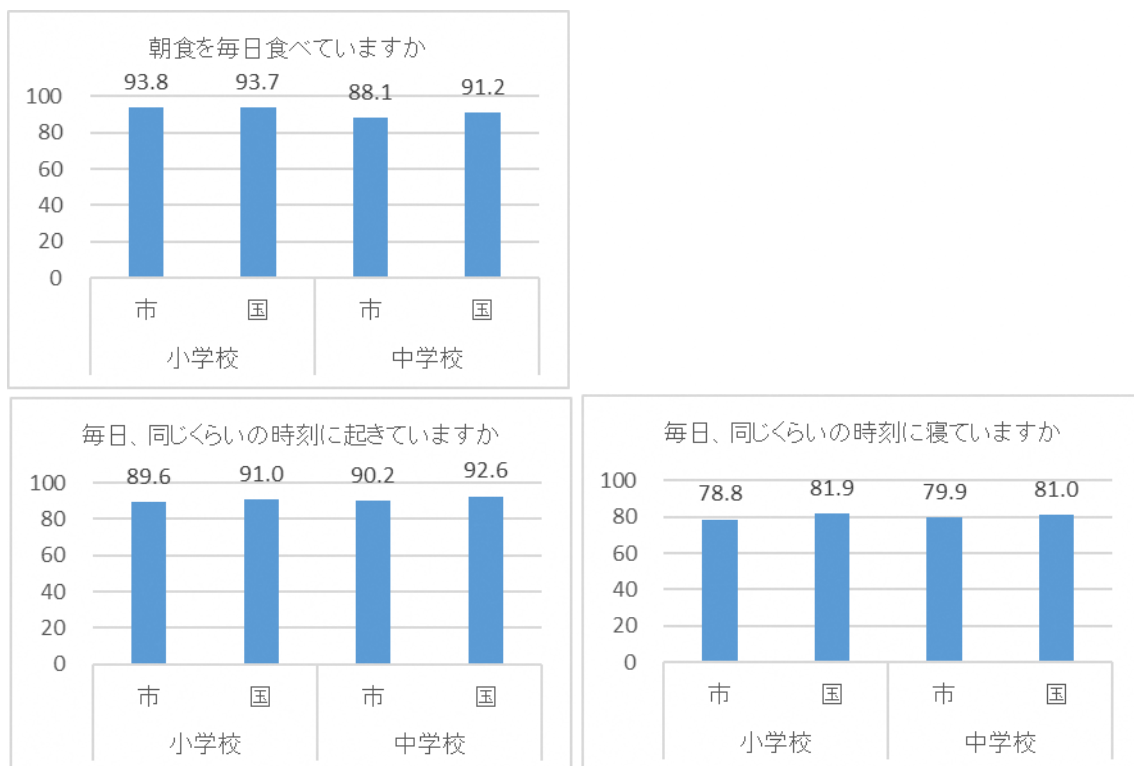
【参考資料】



【評価】

- 「自分には、よいところがある」「先生は、よいところを認めてくれている」等の問いに対しては、小中学校ともに肯定的な回答の割合が高く、良好な状態である。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけない」「人が困っているときは、進んで助けている」等の問いに対しては、小中学校ともに肯定的な回答の割合が高く、規範意識が身に付いている。
- 「将来の夢や目標を持っているか」の問いに対しては、肯定的な回答の割合が小学校で高い傾向にある。中学校では、他の質問に比べると肯定的な回答が低くなっている。多様な経験を積む、自分の生き方について考える等の機会の充実を図っていく必要がある。
- 「人の役に立つ人間になりたいか」との問いには、小中学校ともに、肯定的な回答の割合が高く、良好な状態である。
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに対しては、小中学校ともに、肯定的な回答の割合が高い。
- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいか」の問いに対して、昨年度は中学校で肯定的な回答が70.9%だったが、5%ほど高くなり、小中学校ともに概ね良好な状態である。

(5) 基本的生活習慣等



【評価】

- ・朝食の喫食状況、就寝・起床時間いずれも、肯定的な回答が高い傾向にある。